

歴史文化専攻・入学前教育の課題

【課題1】中国史の中でも最も華やかな時代といわれる隋唐時代ですが、隋唐帝国の成立は東部ユーラシア全体に及び、日本を含めた周辺諸国でも、隋唐と同様の中央集権的な国家の形成を促すことになりました。

7世紀と8世紀の日本の遣隋使・遣唐使の変化とその背景にある東アジアの動きについて、800字程度でまとめてください。

【課題2】

16世紀前後には、世界的に貿易が活発化して、全地球的な意味での「世界の一体化」の第一歩となりました。ヨーロッパ人の到来やアメリカ大陸・日本産の銀の大規模な流通は、明の海禁システムを解体させるなど、東アジアにも大きなインパクトを与えたのです。

しかし、17世紀半ばには、気候の寒冷化などを背景に世界各地で混乱がおり、貿易ブームも終結しました。東アジアでは、人の移動や貿易などの対外関係を国家が統制する傾向が強まりました。日本列島でも、1640年前後に、江戸幕府によってのちに「鎖国」と呼ばれる対外関係の統制がおこなわれました。

では、1640年前後におこなった江戸幕府による対外関係を統制するしくみについて、その背景や、対外貿易がおこなわれた「4つの口」などを中心に、800字以内で記述してください。